

隔離生活

佐藤 紀子

カナダ

帰着せしカナダにわれを迎へたる十四日間の隔離生活  
見繕ひ息子が届けおきくれぬパンも野菜も肉も卵も  
「スーパーに行くけど何か要りますか？」お隣さんからメールが届く  
雲を染め日が昇りくる瞬間をベランダに見る隔離二日目  
交通量の減りて静まるバンクーバー 鳥の囀りひときは高し

春の球場

薄 葉

茂 宮城

スポーツの報道デスクに復帰すぐ東京五輪するりと延びる  
マスクつけマスクの人とすれ違ふときにマスクの中でこはばる  
広瀬川わたるマスクのわれひとり水面みなものカモをしみじみ見やる  
歓声も雄叫びもない球場の屋根をたたける春の叢雨  
スパイクの跡なきままに春となりダイヤモンドの墨間広し

オンライン

豊 島

秀 範 千葉

光冠コロナとはうつくしきものその美名かぶりて地球テラをおそひてやまず  
オンライン授業にのぞめり映りゐる部屋干し洗濯ものを移して  
ミーティング、チャットの接続たしかめてパソコン画面に学生迎ふ  
母親がときをり見ゆるオンライン授業のつづく学生の部屋  
娘たち家族とむすぶオンライン呼ばれし猫も応へて鳴けり

スピノサウルス

小島 な お\*東京

居合刀抜かないままのこの春は捨て印押してにんにく摺って  
跡形もなく雪は解け階下にはピアノ曲昨夜の続きから  
ややありてマスクの下の表情が笑っていると遅れてわかる  
こんな日は背中に皮膚の帆を立てて昔歩めりスピノサウルス  
イギリス留学ともに過ごしたソフィーから貰いし金の刺繡の栞

大禍ふたたび

佐藤 典子 東京

安き世に老を遂げむと思ひしが九十一歳へ大禍へふたたび  
遠き国のとほき昔と忘れぬしベストの惨が語り出ださる  
小望月<sup>こもちづき</sup>しんと澄みたり緊急事態宣言の声うはざる夕べ  
来訪者絶ちたるホームに寂々と老らとこもる先の見えぬ日  
せつけんで指紋うすれし手に開き『西行花伝』声やはく読む

旬を食む

黒石 孝 新潟

産土の食味<sup>フイド</sup>は風土早春の海に足浸け石蓴<sup>あをさ</sup>採る人  
うらぶれて眠りるし樹々陽を弾き四肢広げたり雪吊り解けば  
擬宝珠の若葉、独活の芽、土手の草 外出自粛して旬を食む  
商ひのいのちを繋ぐ融資せり返るあてなき事情<sup>わ</sup>も呑みこみ  
人が消え電飾も点かぬすつびんの自粛の街をゆけば風鳴る

大島桜

一 瀬 武 子 山 梨

足病めば居間より見ゆる隣家の大島桜がここの花見  
今にして知り得し一つ葉の出るは開花と同時の大島桜  
わが脳は日を追ひかたくなりゆけど前屈すれば掌が床につく  
テレビ観てコロナウイルスやりすごし気付けばわれも大相撲のファン  
わが耳よしばし堪へよ補聴器に眼鏡に加へ今はマスクも

stay at home

三 浦 陽 子 長 野

飛石の浅きくぼみの水ゆれる雨の月曜 stay at home  
チューリップの黄色は咲けりけがれなき昨秋の息ぶふんと吐いて  
春みかん(せとみ)をぶりぶり食べながら遠く周防の風を思へり  
二週間単位で時が消えてゆく瀬戸際なのだと言はれつつづけて  
ニュースからのがれて春の庭に立ち(ほ)の口をして息吐いてみる

じやが芋芽吹く

河 合 育 子 愛 知

人類の肺は祈りの手のかたちコロナ肺炎の死者十万人超ゆ  
芽起こしの神の帽子はうすみどりウイルスを跳ね飛ばす春来よ  
春キャベツ芯まで甘し白蝶が青空の端ゆらしあそぶ日  
春空は羽ばたきわたるためあらんレタスふたひら羽のあかるさ  
ウイルスはもううんざりのヒトの世の空をひと蹴りじやが芋芽吹く

水銀体温計

森 田 治 生 三 重

このところ出番の多き体温計五軒巡れど電池のあらず  
電池など要らぬ水銀体温計その単純を長く好みぬ  
帰京、帰洛しか載つてゐぬ広辞苑、帰熊も帰葉も載る大辞林  
三重県と滋賀県を分けるパーティション鈴鹿の山が夕陽に浮かぶ  
楠木は落ち葉の季節春荒れが一歳の葉に引導渡す

明日より卯月

小 坂 喜久代 兵 庫

庭に来る子雀のため雑草を残しておかう明日より卯月  
寄り目してマジカルアイに浮き上がるキリンとしばし朝の刻遣る  
ふるさとは近くにありて訪れることなきところだあれもゐない  
満開のさくらに水面華やぎて鳩浮き沈むさくらの渦へ  
再放送のドラマの主役も脇役もみんな亡きひと遠いゆふやけ

動かぬ時計

竹 内 みどり 鳥 取

マスクせず出歩く民を逮捕せり妄想に棲むロボット警察官  
コロナ禍の街の静寂 レオナール・フジタの腕の動かぬ時計  
杜子春に似る青年の影を折り熟れたるやうな日が落ちてゆく  
一台の車が不意に速度上ぐ時空の裂け目に飛び込むやうに  
砂丘を踏むひとのなき春まひる風にさやらと砂うごきをり